

現 状

- 平成20年の「愛知県衛生研究所資料」によると、心疾患と脳血管疾患による死者数は、それぞれ62人と40人で、2つの疾患を合わせると総死者数の33.2%を占めます。愛知県全体では、心疾患と脳血管疾患による死者割合は25.7%となっています。
- 脳血管疾患による平成16年から平成20年の標準化死亡比（SMR）※10は、男性が84.8、女性が117.3です。（図1）
- 心疾患による平成16年から平成20年の標準化死亡比（SMR）は、男性が107.2、女性が123.1です。（図1）
- 本市では国民健康保険加入者に対して、特定健康診査を実施しています。この受診率は平成20年度46.2%、平成21年度47.3%とそれぞれ目標値を上回り、愛知県の平均も上回っています。（図2）

図1 「愛知県衛生研究所資料より」

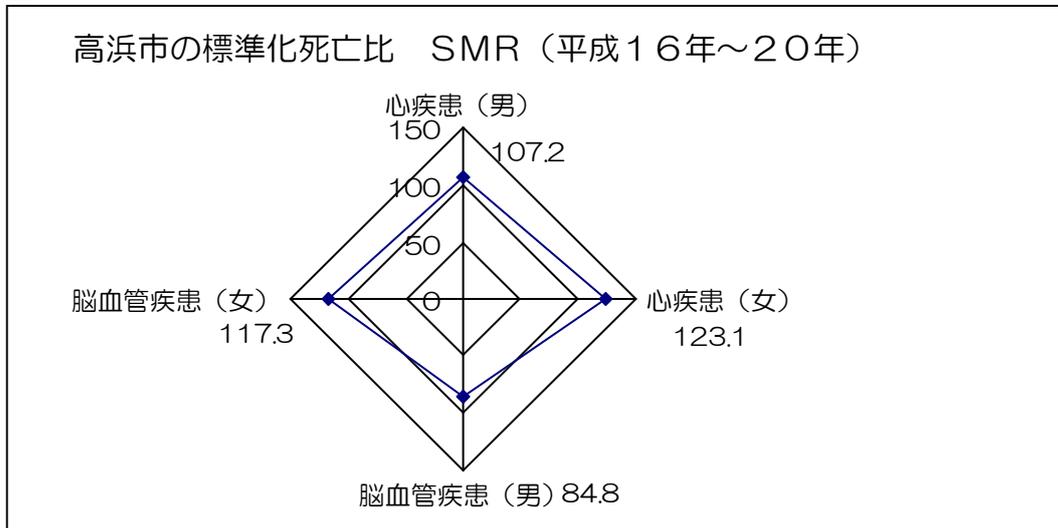
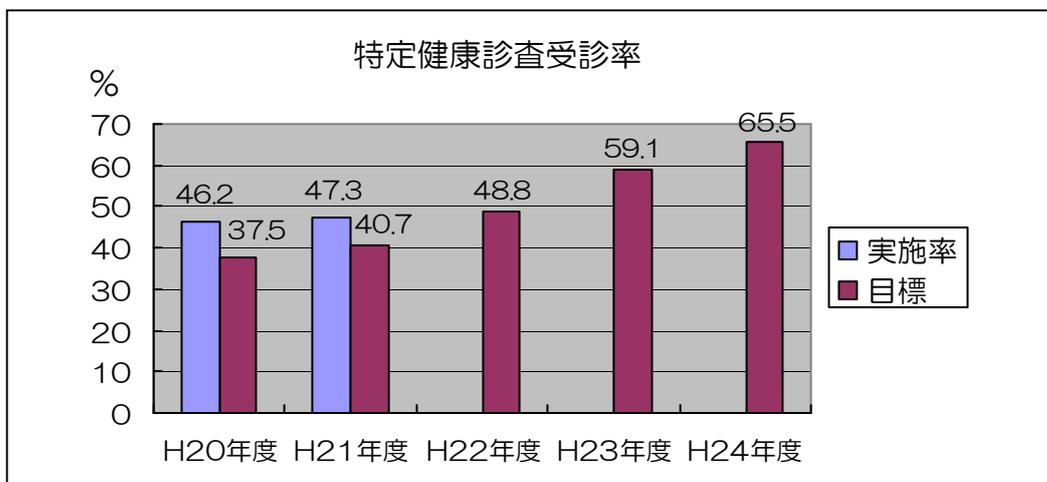


図2 「高浜市特定健康診査受診率（法定報告）より」
「平成20年度高浜市国民健康保険 特定健康診査・特定保健指導実施計画より」



課 題

- 特定健康診査の受診勧奨を行い、受診者数を増加させるとともに、その結果でメタボリックシンドローム予備群の該当者に対して、特定保健指導を実施する必要があります。必要に応じた特定保健指導を受診しやすくするために、趣向を凝らした保健指導の実施を図る必要があります。
- 女性の脳血管疾患及び心疾患の標準化死亡比が高いため、生活習慣を改善させるための啓発活動が必要です。
- 循環器疾患の危険因子である糖尿病、高血圧、脂質異常症※20の要治療者数を減少する必要があります。
- 循環器疾患の危険因子を減少させるため、運動、食生活、喫煙などの生活習慣の改善を促す必要があります。

※19「循環器疾患」

循環器疾患は、大きく心疾患と脳血管疾患に分けられます。心疾患には、狭心症や心筋梗塞などの虚血性疾患や不整脈などがあり、脳血管疾患には、脳梗塞や脳出血などがあります。

※10「標準化死亡比（SMR）」（説明再掲）

標準化死亡比は、基準とした集団（全国を基準集団）の年齢階級別死亡率をその地域の年齢階級別人口に乗じて総和したものを期待死亡数として、それに対するその地域の死亡数（実際の死亡数）の比で表します。100であれば全国と同レベルということになります。100を下回れば全国より低い死亡率となります。

※20「脂質異常症」

血液中のLDL（悪玉）コレステロールや中性脂肪などの脂質（血清脂質）が基準より多い、またはHDL（善玉）コレステロールが基準より少ない状態を指します。従来の「高脂血症」が名称変更されたものです。

健康豆知識

☆メタボリックシンドロームとは？

肥満、高血圧、高血糖（糖尿病）、脂質異常症などの動脈硬化の危険因子が集積した状態を示す概念です。メタボリックシンドロームの状態は、それぞれの危険因子が0～2個の状態に比べて、動脈硬化を生じやすいと考えられています。しかし、危険因子が0～2個のときにも、動脈硬化を生じることが十分にあります。

☆メタボリックシンドロームの診断基準

腹囲 男性85cm以上
女性90cm以上

+

以下の2項目以上

●血圧

収縮期血圧130mmHg以上
拡張期血圧85mmHg以上
のいずれか、又は両方

●血糖

空腹時血糖 110mg/dl以上

●脂質

中性脂肪 150mg/dl以上
HDLコレステロール40mg/dl以下
のいずれか、又は両方